

ふりがな 氏名	はしもと けんた	都道府県	愛知県	
	橋本 健太			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般社団法人 地域問題研究所</li> <li>特定非営利活動法人 NICE (日本国際ワークキャンプセンター)</li> </ul>			
私のESD活動	<b>双方間の学びとやりがいと役立ち感を感じる場づくりが、よりよい未来をつくる活動には不可欠</b>			
関心・活動のSDGs				

## 活動の概要

より良い未来をつくる活動には、相互の学び合いと成長、発見がある場が必要であることを「若手サミット」と「市民大学ちた塾」から強く感じました。

「若手サミット」は、企業や自治体、NPO といった様々な組織と繋がり、実現に向けたアイデアを具現化開催することを目的にした取り組みです。私自身が自主的に携わって活動から派生し、名古屋市が実際に抱えている「教育・多文化共生・防災」を解決するためのアイデアソンを行いました。名古屋市役所と名城大学連携して行ったサミットでは、「絵に描いた餅」ではなく、「小さくても実施すること」を共有し、テクノロジーやビジネスの力を活用し行政課題を解決するアイデアが出されました。行政に頼らず自分達できっかけやコトを起こしていくことのきっかけをこのサミットでの体験から得ました。

「市民大学ちた塾」では、「市民の誰もが生徒・誰もが先生」となる市民講座の支援を行いました。与えられたことをキャッチするだけでなく、情報や知識を与える側に回ることで相互の学び合いが生まれる場づくりの重要性を体感しました。誰もが「できること」を共有できる場を設け、他の市民に役立つ継続的な学びの場を設けることで、参加者全体の満足度や幸福感を生むことを体感しました。社会課題に対して興味関心がある人だけが集まっても解決できません。相互のやりがいや、役立ち感を与える場づくりの重要性を上記2つの体験から得ました。

・「市民大学ちた塾」 <http://www.chitajuku.org/>

・「名城大学社会連携センター」 <https://plat.meijo-u.ac.jp/news/007202.html>

## 今後の活動の展望と周囲や社会への還元

私はこのコンファレンスの参加を通じて、「あきらめない心」を作りたいと思っています。日々業務や活動を通じて思うことは個人の能力には限界があるということです。波及できる効果も含めて私自身は微力であることを感じています。時には自分には何もできないと心が折れてしまいそうになることがあります。しかしながら、微力であっても無力ではありません。地域問題研究所での都市計画やボランティア活動はすぐに目に見えなくても、色々な人の力をいただきながら継続していくものです。そして、何事も継続していくためには仲間が必要です。僅か2日のプログラムで全てが解決するのではなく、この2日間で出会った仲間達がそれぞれ力を合わせることで、助け合うことで、あきらめずに継続していける力を互いに与え合えるのではないかと思います。

業務を通じたまちづくりや、ボランティアでの国際協力など私自身できることを続け持っている知識や情報を人に伝え続けることで、それぞれが活動や目標をあきらめず続けていくことに微力ながら寄与できるのではないかと思います。